

国土形成計画（全国計画）第 3 部（広域ブロックの形成に向けて（仮））に係る
論点（案）

- 国土形成計画（全国計画）のとりまとめに向けて、国土審議会計画部会で御審議して頂いており、現在、同計画は以下の 3 部構成となっている。
- 〔第 1 部〕：計画の基本的考え方（仮）
 - 〔第 2 部〕：事項別施策の基本的方向（仮）
 - 〔第 3 部〕：広域ブロックの形成に向けて（仮）
- 「国土審議会計画部会中間とりまとめ（平成 18 年 11 月）」では、特に第 3 部に関し、各ブロックの自主性を重んじつつ、各ブロックが取り組むべき共通の課題、各ブロックに対する国土構造上の期待やブロック間の連携の必要性について、全国計画で提示していくことを予定している。（なお、広域ブロックの地域戦略等は、広域地方計画で具体化。）
- 本専門委員会の中間とりまとめでは、土地利用区分横断的な施策として、以下の 5 つについて御議論していただいた。
- ・ 人間活動と自然のプロセスとが調和した物質循環の構築
 - ・ 流域における水循環と調和した国土管理
 - ・ 健全な生態系の維持・形成
 - ・ 減災に向けた国土利用への転換
 - ・ 健全で潤いのある「ランドスケープ」の形成
- 広域地方計画の策定に向けて、上記の「各ブロックが取り組むべき共通課題」、
「各ブロックに対する国土構造上の期待」及び「ブロック間の連携の必要性」
について、持続可能な国土管理の観点からも検討すべきである。
- （例）「エコロジカル・ネットワークの形成を通じた自然の保全・再生」
（別紙参照）

(別紙)

国土形成計画(全国計画)第3部における「各ブロックが取り組むべき共通課題」等について(案)

「エコロジカル・ネットワークの形成を通じた自然の保全・再生」について、以下のことが考えられる。

○地域特性を活かした自然の保全・再生

我が国の自然は、地域によって変化に富んだ地史、気候、動植物相などが相まって形成されており、自然の保全・再生に当たり、全国を一律の基準、方法で取扱うことは困難である。このため、まとまりを持った地域ごとにこれらの特性を踏まえ、適切な方策をとることが期待される。

地域の特性については、例えば、気候帯については亜熱帯から亜寒帯までの分布、また、降水量については脊梁山脈を境に太平洋型、日本海型に特徴付けられる2つのタイプの気候が見られる。

各ブロックの自然環境の特性は、参考資料6の通りである。

○エコロジカル・ネットワーク構想及び構想図の作成

自然の保全・再生ためには、全国、広域ブロック、都道府県、市町村など様々な空間レベルでエコロジカル・ネットワーク(エコ・ネット)を形成することが必要である。

広域ブロックにおいて、エコ・ネットに関する施策を進めるためには、それぞれのブロックにおいて具体的なイメージ及び目標等を立てて取組んでいく必要があり、その方向性を示すためのエコ・ネット構想及び構想図を関係者が連携し作成することが期待される。

例えば、エコ・ネット構想においては、有機的なネットワークを形成するための将来の奥山、里地里山、都市等エリアごとの保全・再生すべき目標像、目標種の設定や各エリアをモニタリングするための指標となる生物種を設定すること等が考えられる。また、エコ・ネット構想図においては、GIS等を活用し、地形図に植生の分布状況及び動物の生息状況等の基礎情報を記載するとともに、保全すべき核となるエリア(コア・エリア)、コア・エリアとコア・エリアを繋ぐ回廊(コリドー)等を位置づけること等が考えられる。

○広域ブロックを越えた連携

自然環境は、広域ブロックを超えて連続しているため、広域ブロックでエコ・ネットに関する施策を進める際は、全国レベルのエコ・ネット構想及び構造図との関係を検討しつつ、隣接する広域ブロックと適切に連携することが期待される。

例えば、瀬戸内海におけるエコ・ネットの形成にあたっては近畿圏、中国圏及び四国圏の連携が考えられるとともに、全国レベルのコア・エリアとなる脊梁山脈の自然林等の保全にあたっては、東北圏、首都圏、北陸圏及び中部圏の連携が考えられる。